横根平子のまちづくり通信

2018年3月発刊

vol.15

横根平子のまちづくりを考える会

日差しのぬくもり、木々の芽吹き、吹き抜ける風ー。
春の足音に、ゆるゆると身も心もほどける季節になりました。皆さん、いかがお過ごしですか。
今回は、昨年の自然観察会の様子や、防災研究センター訪問について詳しくお伝えします。

私たちのまちは、こんなまち

2017 11/23（木・祝）

木々に触れ、落ち葉に触れて。晩秋の自然観察会と青空カフェ!

雨あがりの道を、大人子ども20名あまりで散策。子ども見守りボランティアのYくんも加わり、にぎやかに宝池まで歩いた後は、落ち葉アート作りを楽しみました。

野山を飛び回っていた子どもたちも、机に向かうと落ち葉アートに熱中!

初参加者からは「こんないい所があったんだね」との声も。

大人一人では抱えきれません!
これで推定樹齢約100年!

大きな木の樹齢は…!?

道すがらに大木の円周を計測してみると、その太さは1m40cmから3m40cm！木は1年で5mmずつ太くなることから、その場でざっと樹齢を割り出します。1m50cmのもので推定樹齢約100年！その歴史に皆で驚きました。

大府横根の昔ばなし　野球のような、その名も「ゴロピチ」

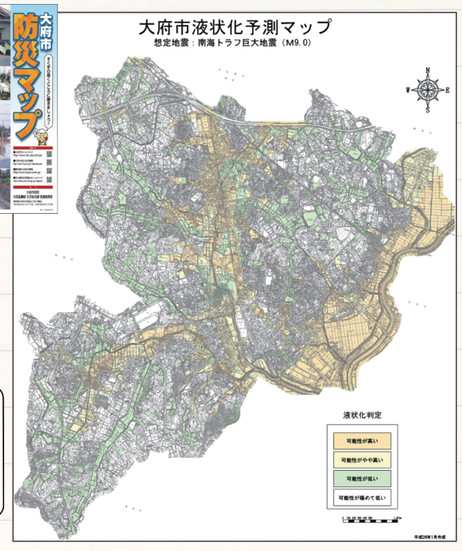
日が暮れるまで子どもたちの遊ぶ声が響いていたのどかな時代ー。
昭和30年頃の横根平子と言えば、道路はアスファルトではなく土の道。子どもたちはヨチヨチ歩きの小さな子から小学生まで一緒になって遊びました。
特に皆が夢中になったのが、畑のあぜ道などで行われた「ゴロピチ」。
三角ベースボールをさらに簡単にしたこの遊び。ゴムボールをピッチャーが投げてバッターが打ち、外野が取る。ヒットを取った外野がバッターになるという独自ルールで、小さい子や女の子も楽しめるように自分たちで工夫していました。
そう、いつの時代も、子どもって遊びを創り出す天才なんですよね。

まちづくりは、今

2017 11/14

大府市の液状化予測について教えてください!
愛知工業大学地域防災研究センター訪問記

ご家庭に1冊はある※大府市防災マップ。この中の「大府市液状化予測マップ」（想定地震：南海トラフ巨大地震）をご存知ですか？ ここには横根地区の多くの地域の液状化が予測されています。
そこで、マップを作成された「愛知工業大学・地域防災研究センター 客員教授 理学博士 正木和明さん」にお話を伺ってきました。
※このマップは大府市と愛知工業大学が協同作成したものです。



「地域防災」の為の施設。

冷たい雨の11月のある日。
モリコロパークやイケア長久手を横目で見ながら、愛知工業大学のある豊田市八草に到着。
その敷地内に地域防災研究センターはありました。
2003年に建てられたこの施設の目的のひとつ、それは「地域防災」。地域住民、子どもたち、自治体に開かれた施設なのです。

センター外観。施設内には、地震体験やその仕組みを学べる施設が充実しています。見学は誰でもできます。ぜひ訪問してみてください！

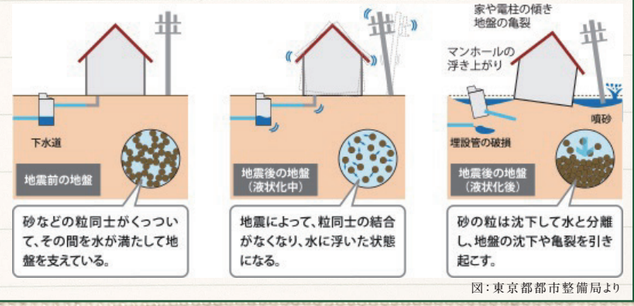
正木先生が語る、横根地区東部の地層とは?

優しく出迎えてくれた正木先生が、わかりやすく液状化の仕組みを説明。
「横根地区東部は、沖積層（ちゅうせきそう）（およそ1万年前から現在に、砂等が堆積した柔らかい地層）が多いため、マップで色のついている所は大地震が来ると液状化が起きます」とおっしゃっていました。
地震が起きた時、自分の住む地区でどんなことが起こるのか？
イメージして対処することの大切さを感じました。

オリジナルの「断層せんべい」と「地震コーヒー」もありました！

Q 液状化現象って?

水に満たされた砂地盤が、地震によって揺れると水と砂が分離して、水が噴き出してしまう現象です（昔は噴砂、噴泥と呼ばれていました）。
1944年の東南海地震、1995年の阪神大震災、2011年の東日本大震災等で起こっています。



図：東京都都市整備局より

問い合わせ先
横根町平子
鷹羽 0562-46-4380
加納 0562-47-2595
http://yokonehirako.jimdo.com/
横根平子のまちづくりを考える会　検索

ブログも更新中!